

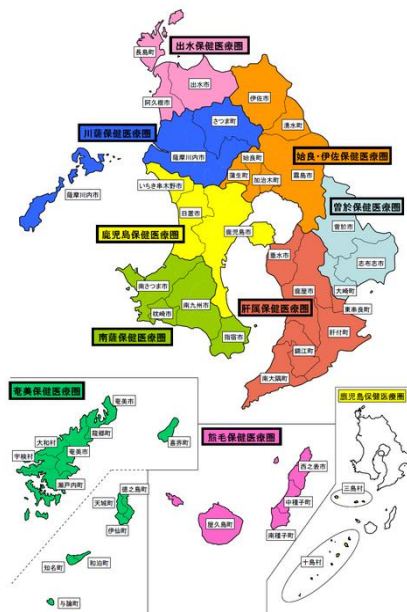


紹介内容

鹿児島県の活動

- 顔の見える関係作り
 - ・ ツールを通してのネットワーク
 - ・ 職種ごとの横のつながり, 職種を超えたつながり
- 互いの利益 (win-win)
- 社会への貢献

鹿児島県の二次医療圏



がん診療連携拠点病院(9)

- 鹿児島大学病院 (都道府県がん診療拠点)
- 独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター (鹿児島市)
- 鹿児島市立病院 (鹿児島市)
- 県立薩南病院 (南さつま市)
- 済生会川内病院 (川内市)
- 独立行政法人国立病院機構南九州病院 (始良市)
- 県民健康プラザ鹿児島医療センター (鹿屋市)
- 公益財団法人昭和会今給黎総合病院
- 県立大島病院 (奄美市)

特定領域がん診療連携拠点病院(1)

社会医療法人博愛会 相良病院

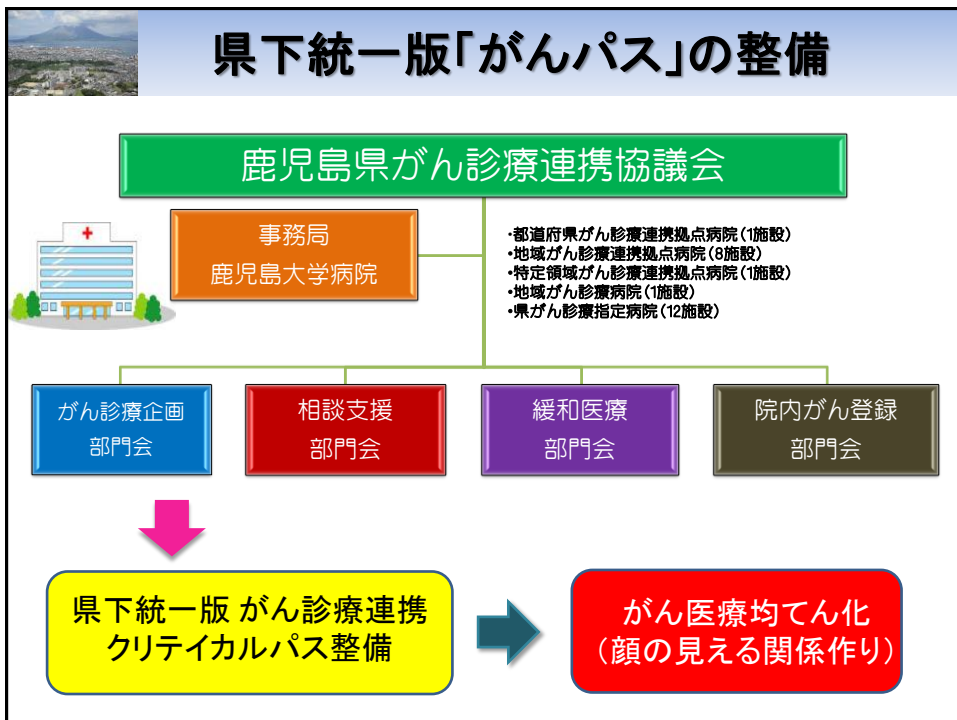
地域がん診療病院(1)

- 出水郡医師会広域医療センター

県がん診療指定病院 (12)

- 公益社団法人鹿児島県済会南風病院
- 鹿児島厚生連病院
- 公益財団法人慈愛会今村病院
- 鹿児島市医師会病院
- 出水総合医療センター
- 社団法人川内市医師会立市民病院
- 鹿児島県立北薩病院
- 霧島市立医師会医療センター
- 特別医療法人聖医会サザン・リージョン病院
- 独立行政法人国立病院機構指宿病院
- 社会医療法人鹿児島愛心会大隅鹿屋病院
- 社会医療法人義順顕彰会田上病院

県下統一版「がんパス」の整備





各拠点・指定病院との共同作業

5大癌と婦人科癌、前立腺癌、汎用版について、それぞれ、拠点・指定病院からのWGで作成。別グループが評価。

お薬手帳は、がんの治療に限らず、お薬の処方を受ける際には必ず薬局に提示するように促してください。

私の手帳
(がん診療連携パス)



鹿児島県
2013年4月 第2版





県との共同作業

補助事業「私の手帳」センター開設

「私の手帳」センターは、鹿児島県内の「私の手帳」の普及・啓発活動や改訂作業および連携手帳のとりまごを行っています。

鹿児島県「私の手帳」センター

☎ 099-275-6529

[HOME](#)
[「私の手帳」とは?](#)
[患者さまへ](#)
[医療関係者の方へ](#)
[鹿児島がん診療連携拠点病院](#)
[お問い合わせ](#)

「私の手帳」とは
地域のかかりつけ医と病院の医師が
患者さまの診療経過を共有できる診療計画です。



「私の手帳」物語

ムービーを見る ▶







患者さまへ

「私の手帳」の対象や使いなどご紹介しています。

医療関係者の方へ

連携パスの類型や連携の流れ、診療報酬算定をご案内しています。

鹿児島がん診療連携拠点病院

鹿児島大学病院 腫瘍センター等をご案内しています。

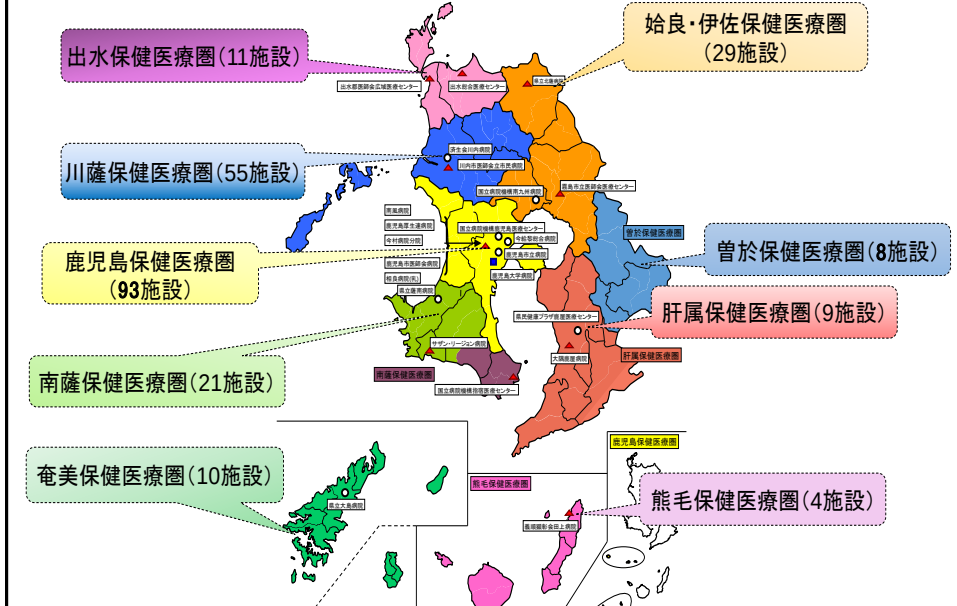
お知らせ ● 過去の記事を見る

- 2015.05.01 「私の手帳」物語ムービーをご覧いただけます。
- 2015.04.01 新人コーディネーターが着任致しました
- 2015.04.01 連携医療機関一覧を更新いたしました

- がん診療連携拠点病院・指定病院
- 私の手帳ダウンロード
- ガイドブック/リーフレットダウンロード
- 相談窓口のご案内

◆届出済み連携医療機関数【医師会との共同作業】

「私の手帳」センターによる一斉届出により、
県内すべての拠点・指定病院との連携手続を行った連携医療機関は**240施設**です（平成27年4月1日現在）



各地域での「がん医療連携」研修会

大学病院（腫瘍・緩和ケア・「私の手帳」センター）と各拠点・指定病院との共催

対象: 連携病院・在宅支援診療所医療者
専門薬局薬剤師
訪問看護師、保健師、介護士

内容: ・地域包括ケア時代における
がん医療連携
・情報共有のための連携パス
・緩和医療連携



※ 県内11カ所で開催、参加者1400名

平成25年度11月～平成27年度 がん医療地域連携推進事業 実施内容				
課題 (PLAN)			実践 (DO)	評価 (CHECK)
業務の区分	主な対象	概 要	実施内容	評価
1	郡市医師会 単位の説明会	医療機関の医師等 【説明項目例】 ①がんの連携バス活用の意義 ②連携バスの活用状況 ③連携バスの構成及び内容 ④医療機能等調査の概要及び調査への協力依頼 ⑤連携時の具体的な手順及び留意事項	平成25年度 ○県医師会 会長・副会長 訪問 平成26年度 ○郡市医師会訪問 13カ所 ○連携医療機関への説明会 8施設訪問 ○事務方向け研修会開催 1回 平成27年度 ○連携医療機関への説明会 29施設訪問 ○連携医療機関の医師向け勉強会 2カ所 開催	・県医師会、郡市医師会を訪問、「私の手帳」の説明を行い周知と理解を促した。 ・連携医療機関へ訪問し「私の手帳」の普及活動が出来た。 ・2医療圏ごとにがん医療に関して医師向け勉強会を開催することにより、医師同士の意見交換が活発に行われた。
2	拠点・指定病院での説明会及び助言指導	拠点病院等職員（医師・看護師・薬剤師・医療連携室職員等） 二次医療圏ごと多職種研修会（連携先医師職員、訪問看護師、調剤薬局、保健師など） 概ね上記1の内容に加え、患者に対する説明の手法及び担当者の割り振りについての考え方など院内体制の整備や患者の反応に対する対応に関する助言指導	平成25年度 ○拠点・指定病院合同説明会 ○拠点・指定病院 個別訪問 16カ所 平成26年度 ○「私の手帳」の地域説明会 11回 (22拠点・指定病院のうち、18病院が共催として研修会開催) 【総参加者数】1353名 ○その他説明会 5施設訪問 平成27年度 ○4施設訪問 ○広報誌「ガーベラ便り」作成・配布 院内患者サロン 参加	・がん拠点・指定病院と「私の手帳」センターが共同し、連携医療機関向けの研修会を開催することにより、双方のバス運用の意識付けの向上を図る事が出来た
	○院内の患者会	概ね下記3の②及び③を説明		

課題 (PLAN)			実践 (DO)	評価 (CHECK)
業務の区分	主な対象	概 要	実施内容	評価
3	県民向けセミナー	県 民 ①がんの死亡・罹患の状況・標準的な治療方法の種類・内容などががんに関する一般的な情報 ②がん医療機関の機能分担の概要 ③連携バスの大まかな内容と利用によるメリット及び利用に要する経費	平成25年度 ○第1弾 広報用DVD作成 平成26年度 ○市民公開講座 3回講演参加 平成27年度 ○2回講演参加 ○MBCラジオ 広報出演 ○第2弾 広報用DVD作成	・市民公開講座、公共のメディアにより県民への「私の手帳」の広報を行った。
4	連携バスの運用状況の把握及び活用促進のための調査・分析	○医師会 ○がん拠点病院等 ○がん患者会 ①拠点病院等に対する連携バス交付件数、バスの継続利用状況、利用者の居住地域等の状況確認 ②県内のがん患者会、がん拠点病院、地域の医療機関等からの連携バスの改善項目等に関する情報収集 ③市民向けセミナー等を利用した県民の連携バスに関する意識調査 ④拠点病院・医師会等との連携バスに関連する事項の連絡・調整及び助言 ⑤以上を踏まえた連携バス活用状況の現状分析及び活用促進のための方策の検討並びに県がん診療連携協議会への報告 ⑥地域のがん医療機関等対	平成26年度 ○上・下半期毎に発行数集計作業 平成27年度 ○3ヶ月毎にバス管理シートを使用し、集計作業 平成27年度 ○「私の手帳」項目改善についてアンケート実施 市民公開講座等にてアンケート実施 ・アンケート項目： ①「私の手帳」を知っていたか。・はい ・いいえ ②「私の手帳」を使用したいか。・はい ・いいえ 上記業務区分1、2と同時に実施 平成25年度 ○県下約900施設に対し連携医療機関希望のアンケートを実施 平成26年度 ○連携医療機関一斉届出を行い、「私の手帳」センター ホームページへUP(241件) ○鹿児島県がん診療連携協議会にてバスの現状報告 平成26年度	・バスを運用するにあたって、連携先を確保する為に九州厚生局への届出手続を「私の手帳」センターで代行し、連携医療機関の掘り起こしが出来た。 ・運用状況を定期的に集計することにより、現状の発行数等を調査出来た。 ・次の課題抽出の為、現在の運用の中で発生している改善点を知ることが出来た。

ACT:今後の課題

➤ 計画策定病院（拠点・指定）

各拠点・指定病院にパス運用のコーディネーターを育成し、円滑な運用を目指す。

2次医療圏毎に具体的な問題点抽出を行い、さらに、その地域の拠点・指定病院による運用会議を実施し、発行数増加につなげる。

2次医療圏毎に連携先医師向け「がん医療」勉強会を継続し、医療者同士の顔の見える関係性作りを進める。

➤ 連携医療機関

かかりつけ医側の視点での情報収集として、連携医療機関へ運用の有無・問題点等をアンケート調査を行い運用へつなげる。

➤ 患者に対して

「私の手帳」発行患者へ聞き取りやアンケートによる調査を行い、バリエーションチェックに活かす。



紹介内容

鹿児島県の活動



顔の見える関係作り

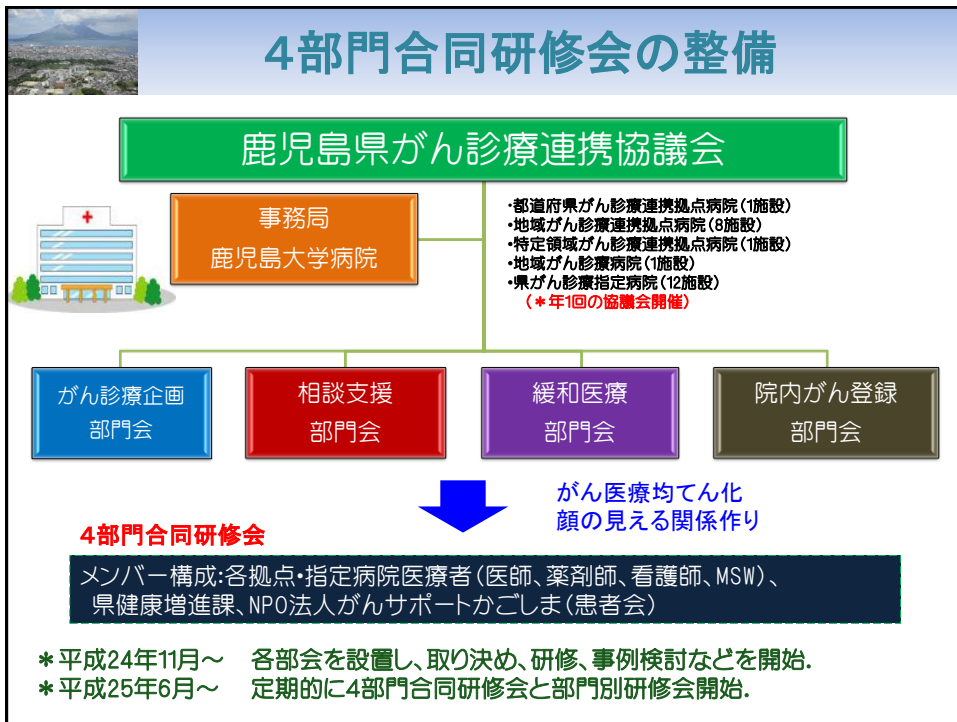
- ・ ツールを通してのネットワーク
- ・ 職種ごとの横のつながり, 職種を超えたつながり



互いの利益 (win-win)



社会への貢献



4部門合同研修会

【要項】

- ・ 年2回開催 (金曜もしくは土曜午後)
- ・ 二部構成
 - 第一部: **全体研修会**(講演、病院取り組み報告)
 - 第二部: **部門別研修会**(事例検討、今後の取り組み等)

【第一部】 平成27年3月21日第4回(参加者160名)

がんパスに関する川内市民病院の取り組み
(地域医療連携室 本山栄一氏)



がん相談支援センターに求められる役割・機能
について (高山智子先生)






紹介内容

鹿児島県の活動

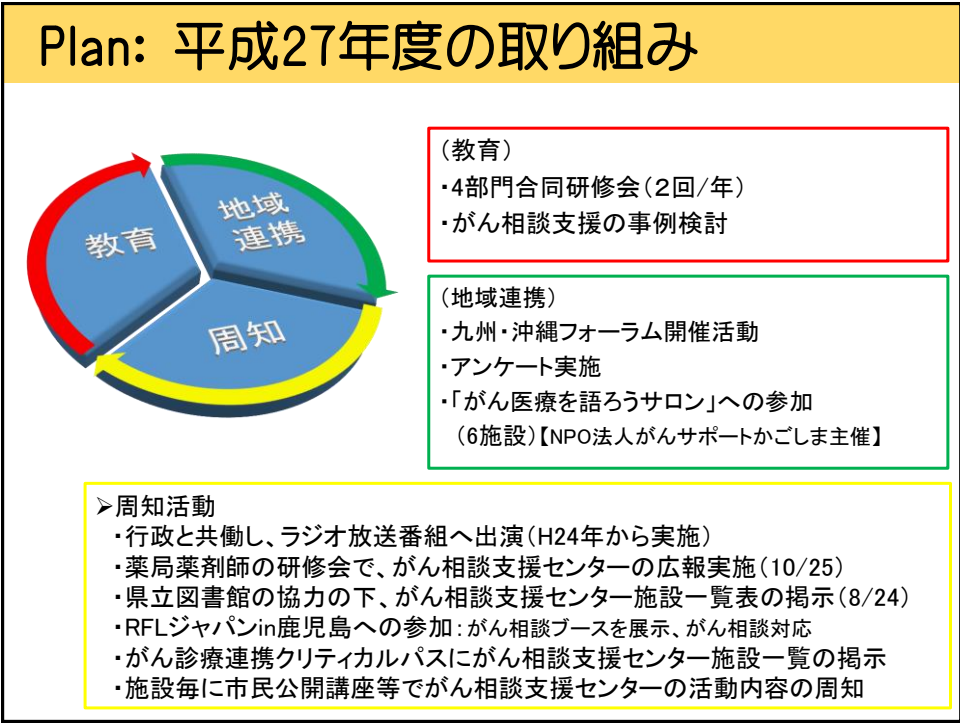
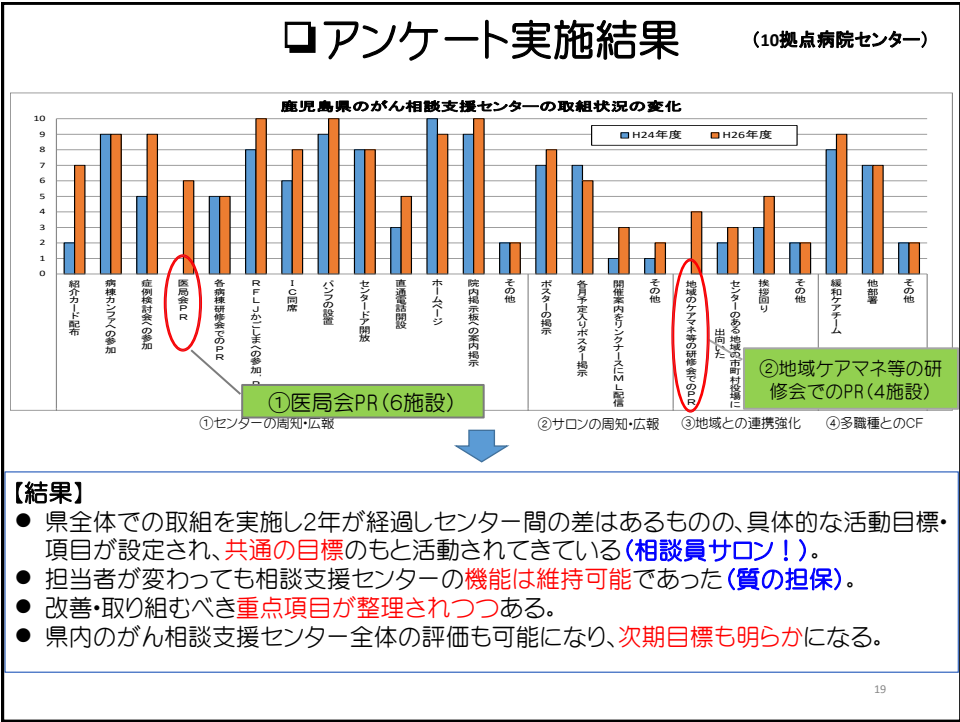
- 顔の見える関係作り
- 互いの利益(win-win)
- 社会への貢献

□がん相談支援部門の活動（4部門研修会）

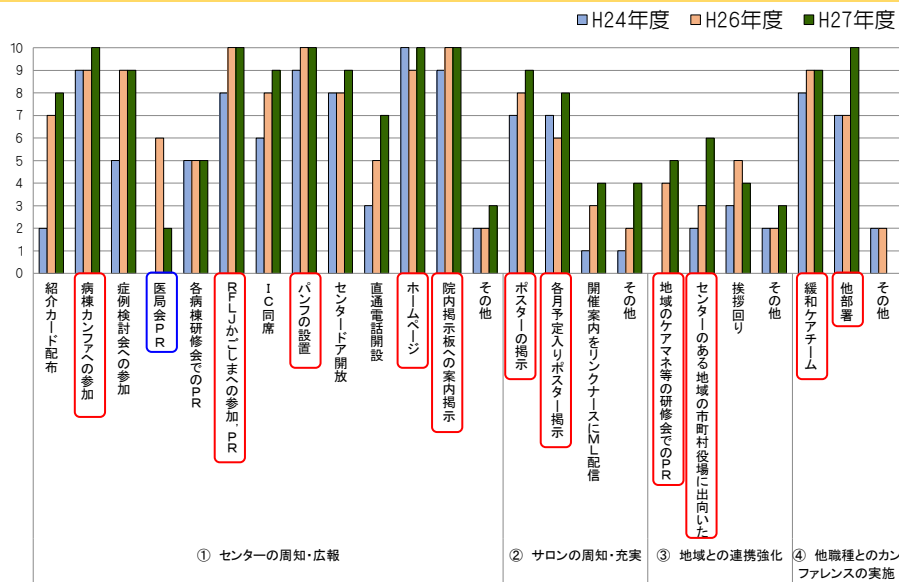
	開催日	全体研修会	事例検討	開催日	全体研修会	事例検討
H24年度	第1回 H24.11.9		「肺がん患者が粒子線治療を医師に相談し、治療を拒否された患者への対応」	第2回 H25.2.8	「新しいがん治療のかたち（粒子線治療）」 講師：メディボリス医学研究財団 菱川良夫	
	第3回 H25.6.1	「がん診療連携クリティカルパス研修会」 講師：熊本赤十字病院血液膠原病内科部長吉田稔 講師：熊本大学病院私のカルテセンターコーディネーター 里山弘子	「経済的な問題を抱えた相談者に対して、相談者としてどのように対応すべきか？」	第4回 H26.2.21	「最新化学療法」 講師：熊本大学附属病院がんセンタ外来化学療法室長 野坂生郷	「自院のがん相談支援センターを事例に、グループワークを実施」
H26年度	第5回 H27.7.26	「愛媛県がん診療連携協議会の取り組み」 講師：独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 寺本典弘	「終末期患者の在宅支援について～がん相談員としてどのような支援ができるか？」	第6回 H27.3.21	「がん相談支援センターに求められる役割・機能について」 講師：国立がん研修センターがん情報提供研究センター 高山智子	「療養先の選択を意思表示されない患者への退院支援について～がん相談員としてできることを考える～」
H27年度	第7回 H27.7.25	「最新消化器がん薬物療法とがん専門医療人の育成」 講師：九州大学九州連携臨床腫瘍学講座 馬場英司	「九州・沖縄ブロック相談支援フォーラム in 鹿児島開催に向けての検討会」	第8回 H28.2.5	「静岡がんセンターにおける緩和ケア連携」 講師：静岡県立がんセンター緩和医療科部長 大坂 巖	「就労支援についての知識を学ぼう」 ハローワーク：河野 智子
* 4部門合同研修会：認定がん専門相談員認定に必要な教育研修Ⅲに登録						

□課題解決に向けた活動の可視化（H24～）

大項目	小項目
1) センター周知・広報	★ (1) 紹介カード配布
	★ (2) 病棟カンファレンスへの参加
	★ (3) 症例検討会への参加
	★ (4) 医局会PR
	(5) 各病棟研修会でのPR
	(6) リレーフォーライフジャパンかごしまへの参加, PR
	(7) IC同席 * 条件あり
	(8) パンフレットの設置
	(9) センタードア開放
	(10) 直通電話開設
	★ (11) ホームページ
	★ (12) 院内掲示板へのセンター案内掲示
	(13) その他()
2) 患者サロンの周知・充実	(1) ポスターの掲示
	(2) 各月の予定入りポスター掲示
	★ (3) 開催案内をリンクナースにML配信
	(4) その他()
3) 地域との連携強化	★ (1) 地域のケアマネジャー等の研修会でのPR
	(2) センターのある地域の役所に出向く
	(3) 年度当初の挨拶回り
	(4) その他()
4) 他職種とのカンファレンスの実施	★ (1) センターと緩和ケアチームとのカンファレンス
	(2) 他部署との情報共有カンファレンス
	(3) その他()



Do & Checck: がん相談支援センターの 取り組み状況と推移 (10拠点病院センター)



ACT:今後の課題

- フォーラム開催を相談員全員で取り組み、協議の場を多く設けたことにより、**相談員同士の信頼関係が深まりチーム強化**に繋がった。今後、部門会開催の機会を増やし、相談員同士の語りの場を保ち**(相談員サロン!)**、**相談員ネットワークの強化**を目指す。
- 今回のアンケート調査で、**地域相談ナビゲーター(地域医療に携わる医師、保健師、看護師、MSW等)**との接点が得られた。このネットワークを維持・強化しながら、がん相談支援センターの利用者増を図る。
- **他施設の成功事例を共有**し、自施設のがん相談支援事業を充実させる。
- これまでの活動から、各グループ活動が対応可能になったと考え、**教育グループ(研修企画班、活動評価班)、広報・周知グループ(広報班、情報誌作成班)**の2ワーキンググループを立ち上げる。より細かなPDCAサイクルに取り組み、がん相談支援部門の発展を目指す。



紹介内容

鹿児島県の活動

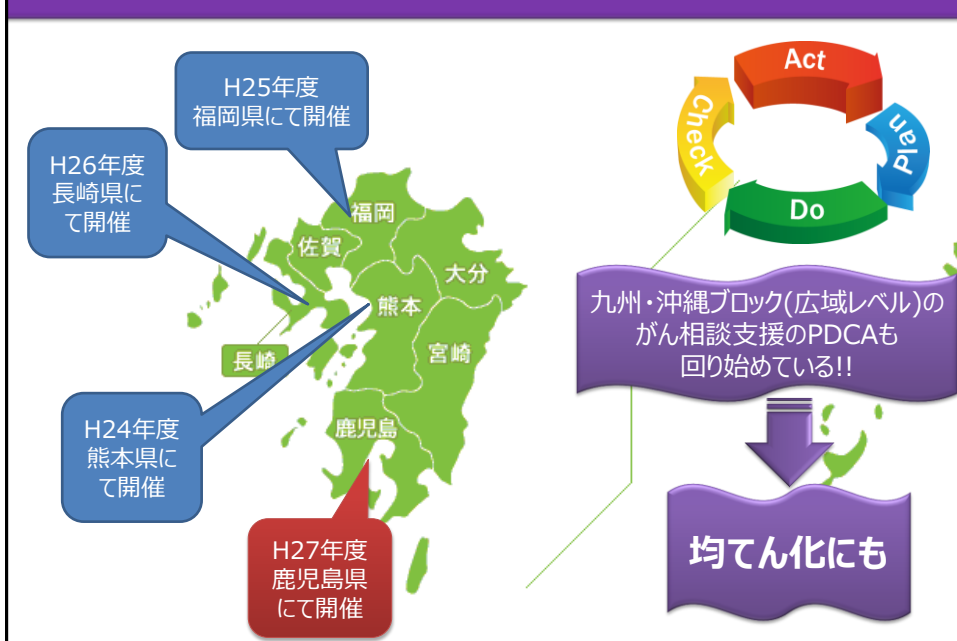
■ 顔の見える関係作り

■ 互いの利益 (win-win)

■ 社会への貢献

□がん相談支援センターの業務体制及び成果等について (H24-26)		
課 題 (PLAN)	実 践 (DO)	評 価 (CHECK)
①がん相談支援センターの周知広報	・院内職員への周知 ・各外来(医師・看護師)への相談支援センター紹介カードの配布 ・病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加し、センターをPR ・院内MLでの紹介カードのPR ・医局会・外来会での医師・看護師への周知 ・各病棟研修会でがん相談員が相談対応していることをPR	・カンファレンスへの出席により、医師や他職種と顔の見える関係づくりが出来、病状説明時に声がかかり、同席できた。 ・患者説明時に同席することで、患者と継続的関わりが出来るようになった。 ・医師、病棟看護師からターミナル期の患者への在宅療養への支援依頼が増えた。
	・院外(患者さん等)への周知 ・リレーフォーライフに参加し、相談支援センターのPR実施 ・がん告知、病状説明時への同席 ・がん相談支援センターの入り口に各種がん疾患パンフを設置 ・センターの案内ミニチラシを入院案内の中に掲載 ・常時、センターのドアを開放状態に。 ・直通電話の開設、ホームページへの掲載 ・院内掲示板へセンターの案内表示 ・「私の手帳」の説明会実施	・紹介カードを持参され、「これを見てきた」との相談例。 ・「ポスターを見た」との相談例。 ・入院案内にチラシを入れることで、入院患者全員にがん相談の案内を配布することが可能となった。
②患者サロンの運営	・患者サロンの各月の予定が入ったポスター作成及び掲示	・ポスターや患者サロン案内を活用して紹介
第5回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会		
がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクルの確保 「がん相談支援センター指標骨子」 実施状況例17項目を採用		
③地域との		
④他職種合同カンファレンスの開催	・病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加 ・がん相談支援センターと緩和ケアチームの週1回のカンファレンス及びミーティングの実施 ・情報共有のカンファレンス実施(自部署:毎日、他部署:週1回)	24

九州・沖縄ブロックの地域相談支援フォーラム



平成27年度
地域支援フォーラム in 鹿児島

テーマ: がん相談支援センターのステップアップ
～周知と共働を目指して～

開催日時: 平成27年11月28日(土) 9:00～16:30
会場: 鹿児島県市町村自治会館
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番4号(県庁前)

【プログラム】
午前の部 9:00～12:00

開会挨拶 鹿児島大学病院院長 熊本一朗
国立がん研究センターがん対策情報センター 若尾文彦

①九州各県のがん相談支援センターの取り組み・活動状況報告

「がん相談支援センター周知度アンケート結果と考察について」
鹿児島県の取り組み報告: 鹿児島大学病院MSW 野村瑞穂

②特別講演: 「聴く・聞く・訊く」
浄土真宗本願寺派善福寺住職 長倉伯博

午後の部 13:00～16:30

③「聴く・聞く・訊く」をテーマにグループワーク
～「きく」ために私たち相談員ができる(すべき)こと～

④九州・沖縄相談員サロン: 今語りたいこと、困っていることを話そう!

- 患者団体の立場から
- 各県の行政の立場から
- 総評 国立がん情報センター

閉会挨拶 鹿児島県がん相談支援部門会長 上野真一

共 催: 鹿児島県がん診療連携協議会、九州・沖縄フォーラムin鹿児島実行委員会
独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター
後 援: 鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、沖縄県、(順不同)

組織づくり……鹿児島県相談員全員参加で

○コアメンバー会議：13回

- ・指導者研修終了者：4名
- ・拠点病院1名
- ・行政1名
- ・国立がんセンターの支援者：2名

○実行委員・全体会議：5回

- ・県内21カ所の拠点・指定病院相談員
- ・NPO法人がんサポートがごしま(患者会)

事務局班

進捗状況の把握・事務処理

会計広報の担当

渉外班

講師の調整・交渉

情報誌の作成

アンケート班

アンケート企画・作成

アンケート結果報告

研修企画班

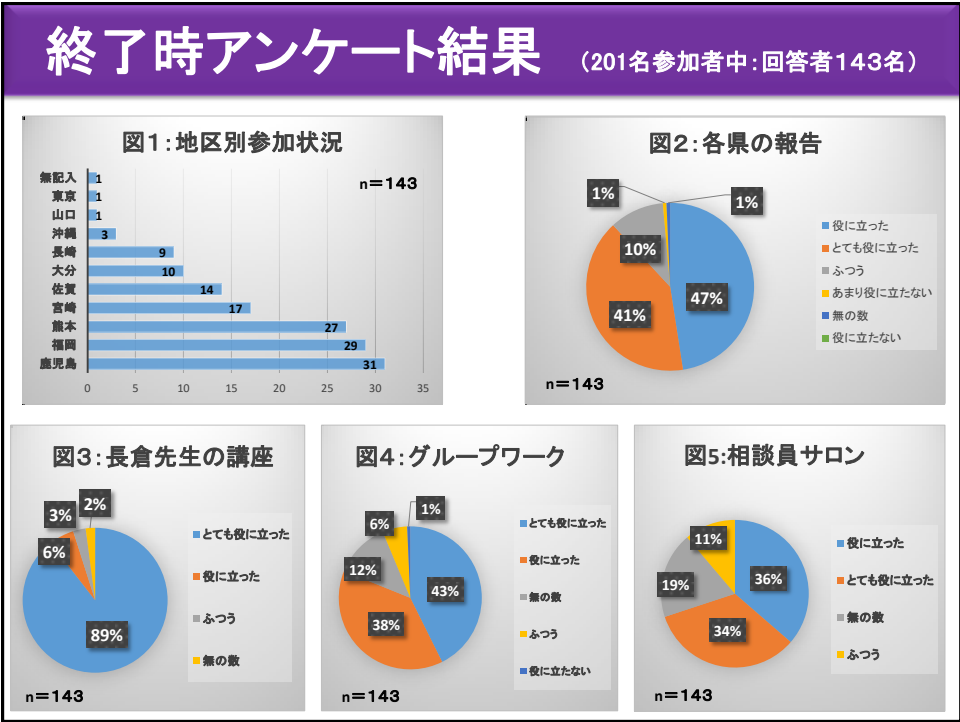
研修内容企画

親睦会係

活動経過

	2014 9月	10月	11月	12月	2015 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月						
メンバー コア	①コア会議	②コア会議	③コア会議	④合同会議	⑤コア会議	長崎フォーラム参加			⑥コア会議	⑦コア会議	⑧コア会議	⑨コア会議	⑩合同会議	⑪コア会議	⑫合同会議（長崎県1名参加）	⑬コア会議	⑭コア会議	⑮合同会議	⑯コア会議	⑰コア会議	⑱最終会議（九州沖縄・宮城県・鹿児島県）
実行員 県内																					
実行員 県外																					
																					
																					
活動内容	・最終打ち合わせ（スケジュール確認） ・宮城県コアメンバーとの意見交換会 ・グループワークの内容修正 ・合同会議（豊崎県安藤さん同席） ・スケジュール表・マニュアル表の作成 ・ポスター作成 ・案内状の送付 ・研修企画班（全体シミュレーション） ・国立がん情報サービスホームページアップ ・研修企画班 ・予算案の作成 ・大会会場の選出 ・渉外班 ・講師の選出・日程調整 ・事務局班 ・企画班 ・グループワークの構成・内容の検討 ・アンケート班 ・内アンケート内容の検討 ・アンケート用紙の作成 ・実行委員会選出・企画案作成 ・県がん診療連携協議会へ報告 ・県内実行委員（フォーラムの主旨説明 前年度開催県長崎県の報告） ・フォーラム開催団体採択決定																				

地域がん相談支援フォーラム 九州・沖縄ブロックでのテーマと共有できたこと					
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
開催場所	熊本県 	福岡県 	長崎県 	博多どんたく イベント (福岡県) 	鹿児島県 
相談員 九州・沖縄8県	103名	131名	124名(1日目) 116名(2日目)	70名 全国から	201名 九州・沖縄・山口・東京・宮城
行政担当者	5名	9名	6名	1名	9名 (鹿児島・宮崎・熊本・佐賀・長崎)
部会責任者	—	6名	7名	1名+多数	4名(長崎・宮崎・沖縄・鹿児島) 4名(鹿児島大学・鹿児島医療センター・今給黎病院)
患者団体から	—	—	4名	3-4名	12名(8団体) (鹿児島・宮崎・熊本・大分・福岡)
メインテーマ	院内体制の違いから学ぶ、 院内で認められ 地域に根付くために	院内外の人にとって もらうための 味方づくり	離島・がん医療空白地帯の現状を知ろう 相談者を支えるネットワークづくり	(案内入り)ティッシュ10,000個 風船1,000個配布 出張がん相談パレード 100名	「がん相談支援センターのステップアップ」 ～周知と共働を目指して～
学んだこと・共有できたこと(一部)	相談員同士が 顔の見える関係 を築いていくこと	あるべき姿の ビジョン を持って病院幹部と話をしていくことが大切	相談員が 人と人、機関と機関 の間に介在することで 積極的な調整 を行うこと	相談したい人はどこにでもいる、気軽に暮らしの中で話せるがん	きぐ”って何だろう～ ～きぐのために私たち相談員ができる(すべき)こと～



緩和ケア部門の取り組み			
研修会, 県下統一シート作成, 事例検討の3WG → 部門会で全体協議			
Plan(計画)	Do(実施・実行)	Check(点検・評価)	Act(処置・改善)
専門的緩和ケアの提供体制の整備	各施設で『生活のしやすさに関する質問票』『疼痛評価シート』『疼痛パス』を実際に運用し、評価・改良へつなげる。	定期的に作成したシートの問題点や各施設の運用状況を確認した。	問題点を受けてのシート改定 運用状況における問題点、各施設で工夫していることを部門会で共有し、運用を推進する。
	1) 医師に対する緩和ケア研修会(PEACE研修会)開催に関して ① 新指針に基づいた運営及び開催の決定・運営支援 ② 緩和ケア研修会受講後1-2か月後のアンケート実施	① 半数以上の施設が新指針を取り入れた研修会を開催した。 ② 3施設で実施(平成28年1月現在)	① 開催運営上問題がなかったか部門会内で確認する。 ② 未回答の施設に実施したかどうか確認し、今後実施予定の施設の回答を含め、結果を来年度の部門会で報告する。
切れ目のない地域連携体制の構築	2) フォローアップ研修会開催に関して ① 開催日時・プログラムの決定(平成27年11月23日開催) ② 講師のための事前学習会の支援	① 平成27年11月23日 8:45~17:00開催 受講生37名 ② 平成27年10月30日 実施	①②ともに予定通り実施した。職種や受講者数は想定したものであったが、参加施設にやや幅りがあったため広報の仕方の検討が必要。
	緩和ケア事例検討会の開催(2回/年)	① 平成27年6月6日(土)開催 事例提供: 鹿児島大学病院 参加施設: 病院21施設、訪問看護ステーション30施設 参加人数: 92名 ② 平成27年11月14日(土)開催 事例提供病院: 川内市民病院 参加施設: 病院15施設 参加人数: 39名	予定通り2回の開催ができた。鹿児島市内の5施設で事例提供担当を回しながら多施設合同カンファレンスも行っているため、次年度は市外地域からの事例提供も随時入れながら検討していく予定。

がん登録部門の取り組み(実務者育成)		
Plan	実務者の育成	県内のがん診療連携拠点病院等の実務者育成のため、 実務者研修会と情報共有体制の整備 を実施する。
Do	研修会開催	- 平成22年度～当院を中心に研修会を企画・開催 - 協力者 院内がん登録実務指導者、鹿児島県の担当者、鹿児島診療情報管理研究会、その他院内がん登録実務者(拠点病院、指定病院等所属) - 参加対象者 県内医療機関で院内がん登録業務に携わる者(がん登録実務初級者認定以上) - 内容 - 院内がん登録指導研修修了者による登録実務の講義・演習 - 医師による解剖生理学の講義 - 各施設の業務体制の紹介 - がん登録に関する情報の提供 - テーマに基づく意見交換 など
	情報共有体制整備	- メーリングリストによる研修会の案内、がん登録に関する情報の提供、 - 実務に関する質問受付(※)を実施。 ※寄せられた質問については、指導者で協議のうえ次回研修会で回答・共有し、統一を図る。
Check	アンケートの実施 登録データの分析	- アンケートで参加者の理解度と要望を確認 - 県内のがん登録データの精度分析
Act	次回研修会へ向けて	- アンケート結果を基に、習熟度や要望に添った研修会を企画 【 検討中の内容 】 - 習熟度別研修 - データの分析方法 - 模擬患者を使用した事例検討 - 登録精度の相互チェック など - 研修会でデータ分析結果を共有し、現状の把握と登録方法を見直すための資料とする

